

平成17年10月31日

平成18年3月期中間決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

1、連結中間期決算について

当社の9月30日現在の連結対象子会社は国内6社、海外6社の計12社で、他に持分法適用関連会社が3社となっております。前年同期比では海外の連結対象会社が1社減少しております。これは本年9月「昆山白木汽車零部件有限公司」(中国・江蘇省昆山市)の清算を完了したためであります。

なお、ビナシロキ有限会社(ベトナム・ハノイ市)は現在清算手続き中であり、また、10月1日付でシロキ商事株式会社がシロキ運輸株式会社と宇和島シロキ株式会社を吸収合併しました。

売 上

[グローバル対応の効果で過去最高]

上半期の連結売上高は、前年同期比2.7%増の583億5千3百万円で、15億3千5百万円の増収となり、過去最高の売上を更新しました。これは、国内売上が前年同期比3.1%増と堅調に推移し、これに加えアジアでも前期比2倍と好調に売上を伸ばしたため、当社グループが、グローバルサプライヤーとして、海外拠点の構築・整備と受注拡大に取り組んだ効果が出てきたものであります。

5月13日に発表した期初予想580億円に対しても、0.6%増の3億5千3百万円の増収となりました。

国内売上

国内につきましては、シロキ工業が前年同期比3.8%増の452億7千1百万円で、16億7千7百万円の増収となりました。これは、軽量化をはかった「アルミドアサッシ」や新機構を採用した「8ウエイパワーシート」などの高付加価値化と競争力強化をはかった新製品と新規受注車種の生産拡大、および得意先自動車メーカーの輸出が好調に推移し、輸出向けの生産が増加したためであります。

期初予想446億円に対しても、1.5%増の6億7千1百万円の増収となりました。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けの売上が、売れ筋車種の変化や海外生産移転などの影響により、前年同期比0.8%減の2億2千6百万円の減収となりました。一方、「フーガ」や「ティーダ」などの新規受注車種の生産

連結

(上段当中間期・下段前年同期)

売上高:

583億5千3百万円

568億1千7百万円

(前年同期比2.7%増)

営業利益:

6億9千1百万円

17億8百万円

(前年同期比59.5%減)

経常利益:

10億9千万円

19億1千2百万円

(前年同期比43.0%減)

中間純利益:

1億8千2百万円

8億1千5百万円

(前年同期比77.6%減)

1株当り当期純利益

2円06銭

9円18銭

海外売上高

139億8千2百万円

130億8千7百万円

海外売上高比率

24.0%

23.0%

設備投資額

29億4千5百万円

28億4千万円

減価償却費

25億5千7百万円

24億4千万円

拡大などにより、日産自動車(株)の売上が前期比30.9%増の8億3千1百万円増収となりました。

海外売上

北米につきましては、SWマニュファクチャリング(米国・テネシー州)が前年同期比0.6%増の122億6千9百万円で、7千万円の増収と、ほぼ前年並みを確保しました。

アジアにつきましては、シロキタイランド(タイ・アマタナコン市)が、現地トヨタ自動車(株)の国際戦略車「IMV」の好調な販売に伴い生産を拡大し、前年同期比93.1%増の10億1千3百万円で、4億8千8百万円の増収となりました。

利益

[グローバル対応・原材料高騰などで前年同期比減益、 期初予想は経常、中間純利益が増益]

利益につきましては、営業利益は前年同期比59.5%減の6億9千1百万円で、10億1千7百万円の減益となり、経常利益も前年同期比43.0%減の10億9千万円で、8億2千2百万円の減益となりました。また、中間純利益も前年同期比77.6%減の1億8千2百万円で、6億3千3百万円の減益となりました。

増減益の主な要因として、営業利益段階では、売上増加による増益効果や徹底した合理化活動による収益改善があったものの、北米・アジア地区におけるグローバル化進展に伴う費用増や鋼材などの原材料価格高騰の影響18億円、並びに新規受注した部品の立ち上げコストの増加とそれに伴う設備投資の増加負担などが影響したため減益となりました。

最終損益段階では、構造改革の最終年度として、昆山白木自動車零部件とピナシロキの整理損1億6千万円や宇和島シロキの工場閉鎖に伴う減損処理2億3千万円のほか、遊休設備の減損処理3億5百万円などを特別損失として計上したため減益となりました。

期初予想に対しては、営業利益9億円に対して23.2%減の2億9百万円の減益となりましたが、経常利益は為替差益3億4千万円があり期初予想の8億円に対して36.3%増の2億9千万円の増益、中間純利益も期初予想5千万円に対して3.6倍の1億3千2百万円の増益となりました。

得意先について

(上段当中間期、下段前年同期)

・トヨタG (*63.8%)
372億5千8百万円
388億7千9百万円
(4.2%減)

・売上高上位4社
トヨタ自動車(*36.0%)
210億4百万円
260億4千1百万円
(19.3%減)

トヨタ紡織(*15.3%)
89億4千6百万円
52億6千3百万円
(70.0%増)

スズキ(*9.0%)
52億4千6百万円
57億5千4百万円
(8.8%減)

日産自動車(*6.2%)
36億5百万円
26億9千5百万円
(33.8%増)

* 社名横の(*)内は
売上構成比率

主要製品について

シートリクライナ・
シートアジャスタ
(*36.0%)
210億6百万円
198億6千4百万円
(5.7%増)

ウインドレギュレータ
(*29.0%)
169億1千8百万円
161億2千万円
(5.0%増)

ドアサッシ(*17.5%)
101億9千6百万円
101億3千4百万円
(0.6%増)

* 製品名横の(*)内は
売上構成比率

2、上期の取り組み実績について

当社グループは、経営の効率化と企業体質の更なる強化を進めるとともに、世界4極市場への対応を万全なものするため、グローバル供給体制の加速、およびグローバルコスト競争力の構築とブランド力の定着に総力をあげて取り組んでおります。上期実施の主な取り組みは次の通りであります。

グローバル展開の加速

広州白木自動車零部件（中国）の操業開始（本年4月）

- ・東風自動車向けにドアサッシとモールディングを生産
- ・06年半ばより広州トヨタ自動車向けにドアサッシとモールディング、ウインドレギュレータの生産を予定

広州白木自動車零部件にプレス工場併設・能力増強

（本年9月建物完成、06年春稼働予定）

- ・プレス部品の生産から組み立てまでドアサッシとウインドレギュレータを現地で一貫生産

北米第3工場建設検討

- ・日系自動車メーカーの生産拡大に対応

シロキタイランド（タイ）でドアサッシの生産

（06年半ばより納入開始予定）

- ・ASEAN地区での生産強化

国内事業の強化

九州シロキに第2工場併設着手

（06年半ばより稼働予定）

- ・九州地区にある得意先の生産拡大に対応
- ・プレスから組み立てまでのウインドレギュレータとドアサッシの一貫生産を行うとともに、生産と物流の効率化を推進

グループ事業の改革

昆山白木自動車零部件（中国）の清算（本年9月）

- ・広州白木自動車零部件に経営資源を集中させ、中国事業の効率化と競争力強化

ビナシロキ（ベトナム）の清算（清算手続き中）

- ・グループ経営の効率化推進

子会社の3社合併（10月1日付）

新製品開発

ブローゼ社（独国）との協業強化

- ・新タイプウインドレギュレータの開発・世界生産立ち上げ準備（06年納入開始予定）

3、通期連結業績予想について

売 上

【アジア好調維持で増収、過去最高更新】

売上高の通期予想につきましては、引き続きアジアが好調を維持し、北米も堅調に推移すると予想されることから、前期比1.5%増の1190億円で、17億4千万円の増収を予想しております。

国内売上

国内におきましては、シロキ工業の下期の売上を前年同期比2.6%減の467億2千9百万円で、12億5千万円の減収を予想しております。これは、得意先自動車メーカーの輸出が引き続き好調に推移すると予想されますが、前年下期は「8ウエイパワーシート」や「アルミドアサッシ」などの新製品と新規受注車種の生産拡大などにより大幅に伸張したため、下期の売上は前年同期比で減少するものと見込んでおります。通期売上は前期比0.5%増の920億円で、4億2千7百万円の増収を予想しております。

海外売上

北米につきましては、原油価格高騰の影響が懸念されるものの、引き続き日系自動車メーカーの販売が堅調に推移すると予想されるため、SWマニユファクチャリングの下期の売上は前年同期比9.1%増の122億3千1百万円を予想し、通期売上は前期比4.7%増の245億円で、10億9千5百万円の増収を予想しております。

アジアにつきましては、シロキタイランドが現地トヨタ自動車(株)の国際戦略車「IMV」向けの生産が引き続き好調に推移すると予想されるため、下期売上を前年同期比21.7%増の9億8千7百万円と予想し、通期売上は前期比49.8%増の20億円で、6億6千5百万円の増収を予想しております。また本年4月より操業を開始した広州白木自動車部品は生産が順調に軌道に乗っており、5億円の売上を予想しております。

利 益

【グローバル化、生産能力増強などで減益を予想】

収益を大きく圧迫する鋼材などの原材料価格高騰につきましては、売価見直しや歩留まり改善による材料費低減活動などの対策を強力に進め、収益改善に努めてまいります。

連結通期予想

(上段当期予想、下段前期実績)

売上高:

1190億円
1172億6千万円
(前期比1.5%増)

営業利益:

17億円
30億3千7百万円
(前期比44.0%減)

経常利益:

19億円
33億4千4百万円
(前期比43.2%減)

当期純利益:

6億円
9億円
(前期比33.3%減)

1株当たり予想当期純利益

6円01銭
9円39銭

設備投資額

81億9千7百万円
64億2千3百万円

減価償却額

57億8千万円
53億4千6百万円

しかしながら、価格競争は今後もますます厳しさを増すものと予想され、またこれに加え、品質確保に伴うコストやグローバル化進展に伴う費用、および九州シロキの第2工場併設や北米第3工場建設などの生産能力増強投資にかかる費用が先行的に発生してまいります。このことから、連結通期の営業利益は前期比44.0%減の17億円で13億3千7百万円の減益、経常利益は前期比43.2%減の19億円で、14億4千4百万円の減益、そして当期純利益は前期比33.3%減の6億円で、3億円の減益を予想しております。今後も一層経営資源の効率化とロスコストの低減など総原価低減に徹底して取り組んでまいります。

当社グループでは、引き続き国内では九州、海外では北米、アジアの各地区において生産体制の強化を進めるとともに、来年1月より全世界への供給を目指した新型ウインドレギュレータの生産を開始いたします。今後も、グローバルサプライヤーとして、更なる成長を遂げるため、グローバル生産・供給体制確立を加速すると同時に、高機能・高品質・低コストの「世界No.1の魅力ある製品づくり」に努め、総力をあげて世界競争に勝ち残りをはかってまいります。

4、個別中間期決算について

売 上

【 拡販と輸出向け堅調で3.8%の増収 】

シロキ工業単独の売上高は、新製品と新規受注車種の生産拡大、および得意先の輸出向けの増産により、前年同期比3.8%増の452億7千1百万円で、16億7千7百万円の増収となりました。期初予想446億円に対しては、1.5%増の6億7千1百万円の増収となりました。

得意先別ではトヨタグループ向けが売れ筋車種の変化や海外生産移転などにより前年同期比0.8%減となりましたが、新規受注車種の生産拡大などにより日産自動車(株)の売上が30.9%増加しました。製品別ではシートリクライナ・シートアジャスタの売上が新製品の「8ウエイパワーシート」などの拡販が貢献したため、前年同期比8.5%増加しました。

個別

(上段当中間期・下段前年同期)

売上高

452億7千1百万円

435億9千3百万円

(前年同期比3.8%増)

営業利益

5億9千8百万円

11億5千万円

(前年同期比48.0%減)

経常利益

10億7千5百万円

13億6千5百万円

(前年同期比21.2%減)

中間純利益

6億9千5百万円

3億8千5百万円

(前年同期比80.3%減)

1株当り当期純利益

7円83銭

4円34銭

設備投資額

23億7千2百万円

19億3千9百万円

減価償却費

億千百万円

20億9千3百万円

主要得意先の売上高

・トヨタグループ(*59.3%)

268億4千万円

270億6千6百万円

(0.8%減)

・売上高上位4社

トヨタ自動車(*31.5%)

142億7千4百万円

147億6千2百万円

(3.3%減)

トヨタ紡織(*11.6%)

52億5千8百万円

52億6千3百万円

(0.1%減)

スズキ(*11.6%)

52億4千6百万円

57億5千4百万円

(8.8%減)

日産自動車(*7.8%)

35億2千7百万円

26億9千5百万円

(30.9%増)

* 社名横の(*)内は

売上構成比率

利益

[中間純利益は80.3%の増益]

利益につきましては、売上増による増益効果があったものの、原材料高騰などが影響し、営業利益は前年同期比48.0%減の5億9千8百万円で、5億5千2百万円の減益、また経常利益も前年同期比21.2%減の10億7千5百万円で、2億8千9百万円の減益となりました。最終損益につきましては、特別利益として貸倒引当金戻入益4億3千1百万円を、また特別損失として子会社整理損2億4千万円や減損会計適用に伴う減損処理などを計上し、この結果、中間純利益は前期比80.3%増の6億9千5百万円で、3億9百万円の増益となりました。

期初予想に対しては、営業利益7億円に対して14.6%減の1億2百万円の減益となりましたが、経常利益は期初予想10億円に対して為替差益2億6百万円があり、7.5%増の7千5百万円の増益となりました。また中間純利益も期初予想4億円に対して、73.8%増の2億9千5百万円の増益となりました。

5、個別通期業績予想について

[増収・減益、グローバル対応・原材料高騰が影響]

下期の売上は前年同期比2.6%減の467億2千9百万円で、12億5千万円の減収を予想し、通期売上で前期比0.5%増の920億円で、4億2千7百万円の増収を予想しております。利益につきましては、引き続きグローバル対応への費用増や原材料高騰の影響、新規受注部品の立ち上がりコスト増などが予想されるため、通期営業利益は前期比59.5%減の11億円で、16億1千8百万円の減益、通期経常利益は前期比44.3%減の17億円で、13億5千4百万円の減益、当期純利益は前期比12.3%減の9億円で、1億2千6百万円の減益を予想しております。

主要製品の売上高

シートリクライナ・
シートアジャスタ
(*35.8%)
162億4百万円
149億2千9百万円
(8.5%増)

ウインドレギュレータ
(*24.9%)
112億7千7百万円
110億2千8百万円
(2.3%増)

ドアサッシ (*21.3%)
96億6千5百万円
96億1千万円
(0.6%増)

* 製品名横の(*)内は
売上構成比率

個別通期予想

(上段当期予想、下段前期実績)

売上高:

920億円
915億7千3百万円
(前期比0.5%増)

営業利益:

11億円
27億1千8百万円
(前期比59.5%減)

経常利益:

17億円
30億5千4百万円
(前期比44.3%減)

当期純利益:

9億円
10億2千6百万円
(前期比12.3%減)

1株当り予想当期純利益

9円55銭
10円97銭

設備投資額

54億6千7百万円
46億8千1百万円

減価償却額

49億4千3百万円
45億9千万円

この件のお問い合わせは:

シロキ工業株式会社 (0533) 84-4691

参与経理部長

大石勝美

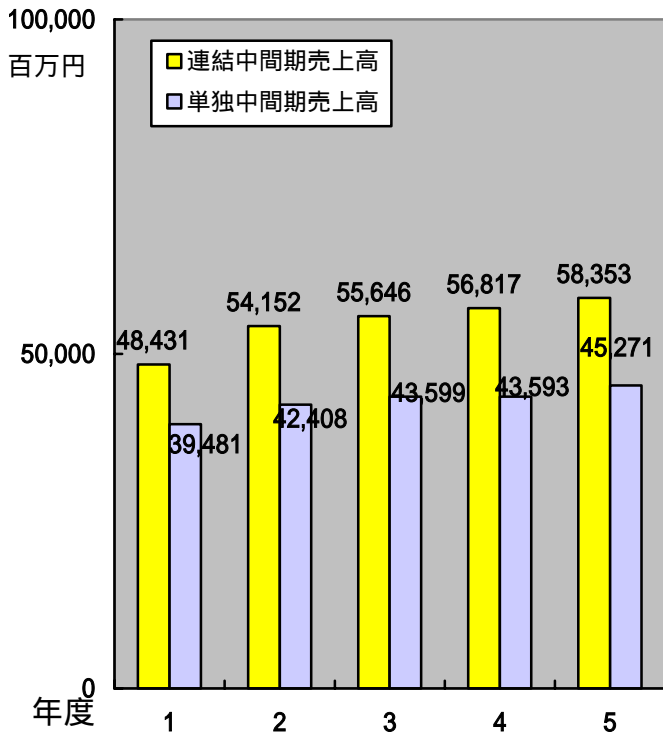
総務部広報担当

眞野成人 まで

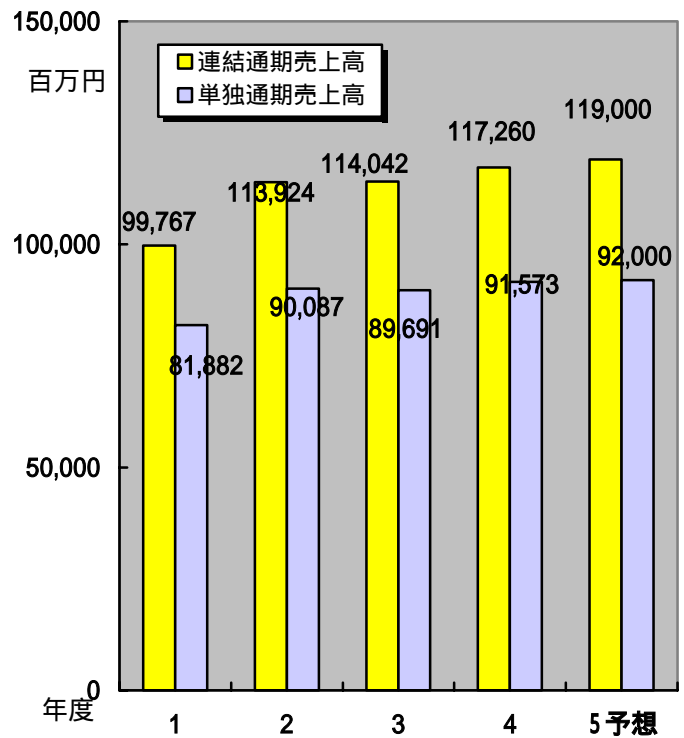
業績推移

シロキ工業株式会社

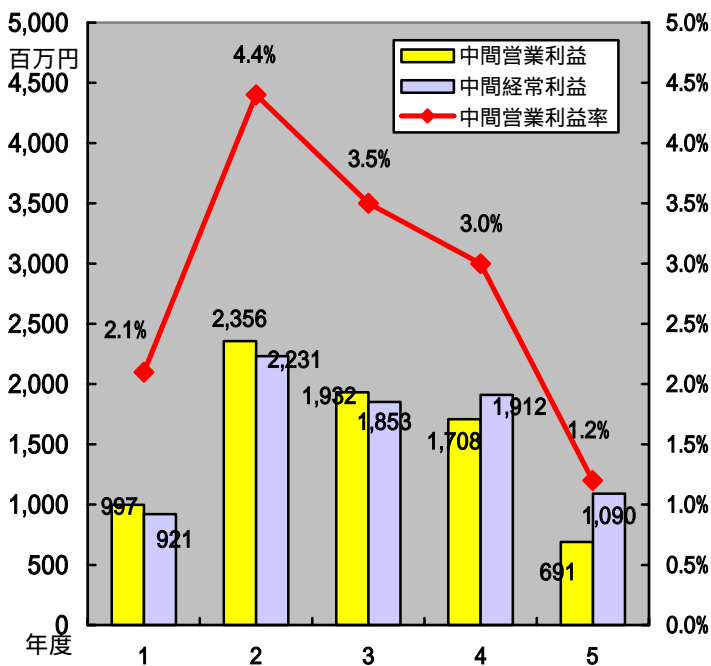
連・単売上高推移（中間期）



連・単売上高推移（通期）



連結利益の推移（中間期）



連結利益の推移（通期）

